



海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく～

1月号

平成29年1月6日

さいたま市立海老沼小学校

～3学期を実りの学期に～

校長 原田 守 康

平成29年、新年明けましておめでとうございます。東の空を明るく照らし始める太陽はいつ見ても感動を覚えますが、元旦の日の出は特に新鮮で、新しい希望の象徴です。

お子様は、冬休みの間、ご家庭でどう過ごされていたでしょうか。ご家庭でお手伝い等をしっかりされたでしょうか。今年の干支は酉年（とりどし）、鳥の中で、昔から『にわとり』は朝一番に鳴き、時間に正確で几帳面な性格から、とても縁起がよい動物だとされてきました。人にとって一番身近な鳥で五千年以上も前から飼われており、身近な最も神聖な鳥として『にわとり』が酉年の象徴となったそうです。

子どもたちには3学期も『早寝・早起き・朝ごはん』と規則正しい生活を送らせていきたいと思ひます。ご家庭でもご協力お願いいたします。

本日から3学期が始まりました。3学期は1年間のまとめでもあり、子どもたちが学校に登校する日は、55日（6年生は53日）と1・2学期と比べ、とても少なくなっています。6年生は卒業を迎えます。子どもたちには、友だちとのかかわりを大切にしながら、積極的に運動や学習に取り組んでほしいと思ひます。

昨年12月6日に国際学力調査（PISA）の結果が公表されました。

3年に1度実施され、今回は日本の高校1年生約6,600人を含む世界72の国と地域の子どもたちが参加しました。結果を見ると、日本の科学と数学はともにトップレベルだったのですが、読解力が前回より下がり8位でした。文章や図表から情報を取り出し、それを文章にまとめる「読解力」が弱いようです。

専門家は「読解力の育成には根拠をもとに論理的に考えて意見を述べられるようにする教育が必要だ」と指摘しています。情報教育に詳しい東工大の赤堀名誉教授によると「デジタル教材での学習について、計算をタブレットで繰り返したり、ネットを使って調べたりすることは関心意欲や知識を深めるうえで有効だが、簡単に正解を求めてしまうようになると読解力が育たない。複数の情報にアクセスして、批判的な目で見たいうで自分で考えを組み立てていくなど、長い時間をかけてトレーニングをする必要があると思われる」と述べています。

読解力を向上させるため、先進校の中では、全学年で週に3回、10分間、新聞記事や説明文を読み、そこから重要な情報を取り出して要約する取組を行っている学校があります。文章の中から「いつ、どこで、だれが」といった5W1Hの情報を抜き出し、それをもとに文章の要約と自分の考えを100文字ほどの文章にまとめる学習です。

1月10日にさいたま市では学習状況調査を市立全小・中学校で実施します。

現在、本校では「国語力向上」に向けて、市教委の指導主事に来校いただき、指導を仰ぎながら、国語科・特別活動（学級会活動）等の授業研究会を積極的に行っています。

今後、市の学習状況調査の実施とその結果をみて、本校児童の国語力について分析・検証して、わかる授業、授業の質の向上を図っていききたいと思ひます。